



編集・発行 山見妙勢能
山見妙勢能 宗蓮 日蓮 宗広
部報
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

二匹の猿の王

日慧

ある山に二頭の猿の王がおり、ともに五百の猿を配下にしていたという。

ある日一方の猿王が配下の猿どもを引き連れて人里近くの村に遊びに来た。村はずれの大木に、美味しそうに熟した実を見つけた猿たちが王に尋ねた。

「王様、あの実を食べてもいいでしょうか」

「いや、ダメだ。近くの村の子供たちでさえ食べていない様子。とすれば食べられない実に違いない」

王の言葉に、猿たちは残念そうにしながらも、誰も食べずに帰って行った。そののち同じ場所へ、も

う片方の猿の王が配下と来た。熟した木の実を見て、

「王様、あの美味そうな実を食べていいですか。よだれが出そうです」

この王は深く考えもせず、「お前たちが食べたいと言うなら食べるがよい」

これを聞いた猿たちは、喜んでわれ先に食べ始めた。ところがまもなく、「痛い、痛い」と腹を押さえて転げ回り、哀れにも全員が死んでしまったという。

これは『沿奈耶破僧事』と言うお経に説かれるお話である。五百匹の猿の上に立って治める立場の王には、情勢を見定めて全体の安全が確保できる道を示す責任がある。皆が喜ぶからと、よく考えもせずに低き

に流れてはならない。しかし、逆に王の判断が正しくても、誰も従わなければ、これもまた全体の安全は確保できないことになる。

上に立つ指導者の在り方はまことに難しいものだ。良薬は口に苦しと言いが、苦い思いを強いて不評を買うより、口に甘い言動のほうがどれだけ人を引きつけることができるか。しかしそれは一時のことで、低き

に流れた結果は破滅である。それにしても苦いのはいやだ。苦くない良薬なんてあるのだろうか。ある。それが『諸経の王』たる法華経だ。私は私たちを正しい道に導くためこの世に出て

来られた。そして私たちのために残しておいて下さった「良薬」が法華経なのである。色も香りもよく美味なる良薬だと説かれている。是非味わって欲しい。

《法華経に学ぶ現代》

是の

如く

我れ

聞きき

『序品第一』

侘しき感じる 秋の日は 耳を澄まして

舞い散る木の葉が語ります 生あるものは 一つの日か

母なる大地に還るもの しがみつくより

それが仏の教えだと 風に託して伝えます

10月の行事予定

- ★写経会 10日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(金)13時
- ★妙見さまのご縁日祈願会 開運殿にて執り行います
- ★鷗様月例祭 22日(金)15時
- ★火伏せ守り札を授与します
- 宝物館公開展示は中止します

11月の主な行事

- ☆七五三詣祈禱 1日〜30日
- ◎お子様の成長を祈って、11月中ご祈禱いたします
- ※祈禱札の他記念品を贈呈
- ◎折捨志納料 6000円
- ☆宗祖日蓮聖人御会式法要 13日(土)〜14日(日)
- 11月の写経会は中止します
- 10月・11月の清掃の日・星嶺演奏会・茶論は中止

- ◎ご祈禱・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付けております
- いずれの行事も社会情勢により変更する場合があります
- 出合いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- 登山カード押印は休止
- 昇堂時はマスク・人数制限等
- 感染防止にご協力下さい
- 送迎車は運行していません
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中

「私たちは

釈尊の愛子」

相川大輔

最近よく目にするのは、「誰それがこんな事をした、あんな事を言った、けしからん」といった、ネット社会の産物といえる、いわゆる「炎上ニュース」だ。確かに、いじめ問題の告発等、炎上ニュースが問題解決に有効に働くケースもあると思われるが、ほとんどの炎上は「憂さ晴らし」の部類だと思われる。

この憂さ晴らしに関して興味深い言葉がある。「シャーデンフロイデ」だ。この言葉は「害」と「喜び」をつなげたドイツ語である。日本語では「他人の不幸は蜜の味」と表せる。ザ・シン普森ズというテレビアニメの中で、主人公のホームマーが裕福で賢い家族たちと幸福そうに暮らす隣人のネットが新たな商売を始めた際、上手くいっ

ていない様子を知り「店ガラガラだよ」と嬉々として家族に話す。これを聞いた娘のリサはホームマーに「シャーデンフロイデって知ってる？」

「ドイツ語で恥知らずな喜び、人の不幸を喜ぶことをいうの」とホームマーを批判する場面がある。

そう、シャーデンフロイデは私たちが頻繁に経験する心理であり私たちはこの蜜が好物なのだ。心理学によれば、人は自己を他者と比べた結果、羨みや妬みを感じて自己肯定感が下がると、自分が蔑むことができる対象を見つけて自己肯定感を満たし心のバランスを本能的に取るのだそう。仏教では、自己と他者を比べることを「慢（まん）」といい、煩惱の一つである。とされる。自分を高くみるのが増上慢、低くみるのが卑下慢である。「慢」は根源的な煩惱なの

写経

写経は仏道修行において、功德甚大であることが法華経に説かれています。仏の教えをただ眼で見るとはなく、一字一句を身にかけて書き写すということは、自身の心に経文を染みこませるだけでなく、他の人の目にもとまるようにすること

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

であり、他を利する行為ともなるからです。能勢妙見山では毎月第二日曜日に写経会を開催しています（11月は休み）。また、短時間でできる『体験写経』も準備しています。木々の向こう遙かに丹波山系を臨む会場で、心のシャワーを楽しんでみてはいかがでしょうか。

コロナ禍における

行事について

10月・11月の行事は感染予防のため左記の通りとします
ご理解ご協力お願いします

○写経会

10月10日は催行予定

11月は行事のため中止

○宝物館公開展示・清掃の日

・星嶺演奏会・茶論いずれも

10月・11月は中止します

※情勢により予定を変更する場合があります。

法華経茶話Ⅱ

十二支縁起④

「愛」が何度も繰り返して起こること、対象に、より強く執着するようになります。これが「取」です。

「取」の種類として、①欲取（欲望の対象への執着）②見取（誤った見解に対する執着）③戒禁取（自我が存在するという思い込み）④我語取（自己を不変の主体であると思ひ込む）があり「四取」と呼ばれます。

「取」が強くなってくると「身口意」つまり身体と言葉と意（こころ）に現れてきます。これが「有」です。この身口意に現れた行いのことを業（カルマ）と呼びます。仏教では輪廻することも解脱することも全て業によると考えました。業が原因となり、結果として果報をまねくのであるから、積極的に善行を積み、安楽な結果を求めることが必要なのです。